



特定非営利活動法人
富山県防災士会 会報
(NPO 法人日本防災士会・富山県支部)

第26号
令和2年3月1日
発行 富山県防災士会
連絡先 090-9762-8267
(事務局長：佐伯)

天涯の地で富山平野を護る
～立山砂防体験会に参加して～



10月10日の立山カルデラ砂防体験会に富山県防災士会会員19名が参加しました。1858年(安政5年)に富山や飛騨を襲った飛越地震の折、大鷲山、小鷲山が山体崩壊をおこし、大量の岩石や土砂が常願寺川にせき止め湖を形成しました。そのせき止め湖が2度にわたって決壊、大土石流になって富山平野が泥の海と化し、現在まで100年以上にわたって砂防工事が行われています。

最初に私を驚かせたのは、立山駅から鷲山現場まで続くトロッコの軌道です。標高差640mのためスイッチバックを何十回と重ね、我々をすし詰め状態にしてトロッコは2時間のぼり続けます。終点の水谷平では、溶岩が結晶した柱状節理の崖が我々を出迎え、白岩堰堤をはじめとした砂防堰堤の群れが見えます。泥谷1号堰堤には、(天の果て遠く離れた地で富山平野を護る)との意がある『護天涯の碑』が設置されています。砂防ダムは土砂で埋まることで川底の浸食を防ぎ、下流の人々の生活を護っています。鷲岳や薬師岳と並ぶ高地で富山平野を護る工事を何十年も続けていることを思うと作業の方には感謝しかありません。10月初めでしたが、既に現場小屋の解体が始まり、来期までトンネル内に保管することです。

帰りはバスに乗り有峰林道を進み、跡津川断層の露頭箇所を見学。白っぽい花崗岩と礫化部があり、地震の発生地点を見た思いがします。160年前の地震の影響が現在も続いています。

今回、以前から興味があった立山カルデラや断層、水害を防ぐ砂防を見学し、その歴史を実際に学べたことは、防災士として人に伝えていくうえで私にとって大きな自信となりました。今後の活動に生かしていきたいと思えます。(記 覚田)

令和元年度防災士研修会を開催
～富山県の地形・地質と災害～

本年度の富山県防災士会研修会は、12月8日に、富山大学大学院理工学研究部都市デザイン学部の立石良准教授を講師に招き、「富山県の地形・地質と災害」をテーマに開催されました。小杉理事長の挨拶に続き、洪水と地震について講演がありました。立石先生は、地震・津波・活断層の調査解析を専門にされていますが、地質コンサルタントという前歴をお持ちで、予測技術についても研究されています。富山県の水害は、地形と関連が深く、扇状地を形成した急峻な河川が緩い勾配に入り蛇行する地点で洪水時に破堤が起きる可能性が高いそうです。また、富山県の地震回数が圧倒的に少ない状況は、活動期に入る前兆とも考えられるとのこと。内陸地震の場合、活断層の長さから地震マグニチュードの推定ができるという予測技術への期待が高まるお話もありました。

地形発達史を前提とした先生のお話は災害発生状況をイメージしやすく、引き続き開催された懇親会では、先生の周りに終始会員が集まり、質問が続き、防災士間の親睦を更に深めるような会になりました。

(記 佐伯ゆ)



台風19号による被災地ボランティア活動を実施

富山県防災士会は、昨年東日本各地に甚大な被害をもたらした台風19号被災地への支援を実施しました。

この行動は本会が策定している災害時行動指針にもとづく活動として、隣接する長野県への災害救援活動となります。10月24日と10月27日は被災住宅の泥の掻き出し、11月23日は泥に



浸かったりんご園の摘果や集積作業を実施し、計3回のべ37名が参加しました。また別日程でも会員5名が個人として参加しています。被災地域のご苦勞には及ばず、微々たるものでありますが、少しでも役に立つことを願うばかりです。

(記 事務局)

会員
自己紹介

防災士 岡本 隆史（富山市）

自然の中で遊ぶことが大好きで、今でも時間があれば山や、川や、海に足が向いてしまいます。キャンプ、登山、ラフティング、キャニオニング、スキーなどを通して、ときには厳しく、ときには優しく迎えてくれる自然から様々な体験をさせてもらっています。防災に関心をもったのもこの自然体験が根底にあるように思います。阪神淡路大震災時、電鉄不通区間において代替バスの切符切り業務をしながら見たあの光景と、それでも人間社会の時間は進んでいくやるせない空気感。東日本大震災で廃材とゴミ運搬中に見た骨組みだけの建物や押しつぶされた消防車、自動車の数々。集積場である小学校のグラウンドが廃材とゴミで埋め尽くされた人間生活の山の塊。当たり前前が当たり前じゃないとわかっていても悔しい気持ちになりました。『自分の命は自分で守る』ということは常に緊張感と自分への責任が必要です。心と体、技の準備を日頃から心がけておくよう意識しながら、今を大事に防災士の活動に取り組んでいきたいと思ひます。



第4回スキルアップ研修を開催



11月9日、サンシップとやまで令和元年度第4回スキルアップ研修会が開催されました。小杉理事長の挨拶の後、まず佐伯事務局長から防災講演の著作権をテーマに、正しい「コピペ」と違法な「コピペ」について、著作権法に基づいたアドバイスを説明して頂きました。また、講演を担当する場合の考えるべき内容や心構えについて、自らの体験を元に説明して頂きました。次に川戸副理事長より、災害から学ぶ被害想定と備えについての講演があり、①起こりうる災害を想定して、地域の防災担当者と危機感を共有すること②ハザードマップの内容を把握し、避難スイッチや避難行動の在り方を決めておく③被害を最小限に抑えるための訓練や対策を実施する、という内容について紹介されました。また上田理事からは、安田城を起点に豊田に至る呉羽山断層の痕跡を確認する呉羽山断層ウォークの実施結果の報告が行われました。写真によると、地面の角度が急に変わっていたり、家の基礎が一定方向に揃って上がっていたりと、特徴のあることが分かりました。富山平野は、河川段丘や断層隆起を見れば断層の形を想像しやすいとのことでした。（記 齊藤）

11月17日、高岡市ふくおか総合文化センターにて富山県原子力防災訓練が開催され、富山県防災士会は、住民による自主的な避難所運営や家具の転倒防止・耐震補強等の啓発活動に参加しました。当日はマネキンを使って避難時の服装・準備物などを表現し、好評でした。

富山県原子力防災訓練に参加



Topics

(社)立山黒部ジオパーク協会と
協定を締結



富山県防災士会は、10月7日、富山市のアイザック城址公園前ビル内において、災害に強い社会実現するという共通の目的を相互に理解・発展させ、より緊密

組織的に活動できるように体制強化を図り、災害に強く持続可能な社会の実現に貢献することを目的として立山黒部ジオパーク協会との間で連携・協力に関する協定を締結しました。

お知らせ・年度会費の納入について

- お知らせ
富山市より、富山県防災士会にパソコンを1台寄贈頂きました。
- 年会費について
年会費は会報のご案内にお振込票を同封して、会員の継続をお願いしています。令和2年1月から3月末までにご入会された会員様の会費は次年度分として取り扱いさせていただきます。
なお、8月末までに年会費のお振込がない場合は、一時休会の手続きを取らせて頂きます。年会費をお振込頂きました時より、復会とさせていただきます。



富山県防災士会ホームページ
当会の活動や取り組み等をご紹介します。

<https://www.toyama-bousaishikai.org>

地区での会員の活動を掲示板等でお知らせください。

編集後記
新型肺炎が蔓延しつつあります。会員各位、日頃の危機管理を十分に発揮され、十分な予防対策をお願いいたします。